

ちえふくらう

【台湾でも任意後見】

2026年、今年もよろしくお願ひいたします。私は昨年11月、台湾で事例を発表する機会をいただきました。つないでくれたのはUさん(台湾人・女性)です。

Uさんとの出会いは13年前(2012年)、当時Uさんは日本でケアマネジャーをされていて、たまたま私の講演を聞かれ、後日電話をもらったのがきっかけです。Uさんの利用者さん、91歳おひとりさま男性のことで『今まで担当していたTさんですが、この度の入院で、私はケアマネを外れることになります。キーパーソンのいないTさんの今後がとても気がかり、看取りのこと、死んだ後のこと、誰も関わってくれる人がいない、何か良い方法はありませんか?』と当時、Uさんが困っていたことを思い出します。

私はUさんと病室を訪ねTさんから話を伺うと『頼れる人、信頼できる人はUさんしかいない』と何度も仰います。

そこで私は『任意後見契約』をUさんとNPOと複数で契約する方法があることを伝えました。Uさんにはなるべく負担はかけずに、元ケアマネとして面会や外出の他に、Tさんの楽しみを主に行うのはどうだろうか、と提案しました。

『それなら私にもできるかもしれない』とUさんが了承をし、TさんとUさん、NPOとの複数後見を結び、その後、一緒にTさんの看取りまで関わったのです。

それから数年してUさんは台湾に戻り、介護福祉に関する主要なポジションに就かれ、この度、医療介護福祉フォーラムの基調講演に声をかけて頂いたのです。

タイトルは『能夠實現本人自主決定權的
關鍵人物是誰?』

日本語訳(本人の自己決定権を実現するキーパーソンとは?)です。

当日は、公正証書が間に合わずに希望が叶えられなかった事例と、最期まで本人の希望をチームで関わり、ひとつずつ叶えていった事例をお話しました。

初めての海外での講演、同時通訳の方がいらっしゃるのですが、私の話す『キーパーソン』のニュアンスが伝わるだろうか、と心配をしていましたが、通訳される前に、会場から笑いが起こることが度々あり、私はキツネにつままれたようでした。地図の距離以上にとっても近い感覚になり、日本と変わらない、いつもの調子で話げできたように思います。

通訳の大学教授Sさんが『台湾では日本に後れて、成年後見制度はスタートしたが、現状では日本のような任意後見受任者としての活動はない』と、仰っていました。

その為、日本で行われている任意後見受任者(キーパーソン)の役割は何なのか、ひとり暮らしの高齢者にどのように関わり、どのように本人の希望を叶えているのか、具体的な事例が台湾のみなさんにとって興味津々だったようです。

そうはいつても、日本の現状も任意後見に関しては、まだまだこれからだと現場で強く感じています。日本で『任意後見』(自分の人生を自分で決める)が当たり前になるよう、微力ですが今年も実践と啓蒙を続けてまいります。 三国浩晃